

「HAKUTO-R」 ミッション2 TENACIOUS（テネシアス）ローバー JAL 機にて日本への輸送完了 記者発表会を開催

株式会社 ispace（本社：東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下「ispace」）（証券コード [9348](#)）は、今冬に打ち上げ予定の民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション2において、月面探査に挑戦する小型月面探査車 TENACIOUS（テネシアス）ローバーが日本航空株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長・グループ CEO：鳥取三津子、以下「JAL」）の航空機にて日本への輸送を完了したことを受け、9月4日（水）に JAL と共催で記者発表会を実施いたしました。



（左から、ispace 齊木敦史、袴田武史、若田光一様、JAL 鈴木隆夫様、JALEC 萩川宏樹様）

羽田空港新整備場地区にある「JAL スカイミュージアム」施設内にて、滑走路を間近に望みながら行われた本発表会では、ispace 代表取締役 CEO&Founder 袴田武史、同社 CRO 齊木敦史、JAL イノベーション本部長 鈴木隆夫様、株式会社 JAL エンジニアリング取締役兼事業推進部長 萩川宏樹様が登壇。さらにゲストとして米 Axiom Space（アクシオム・スペース）宇宙飛行士兼アジア太平洋地域 CTO の若田光一様をお招きし、「民間企業の宇宙開発への挑戦」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

ispace の欧州法人である ispace EUROPE S.A.が拠点を置くルクセンブルクで開発された TENACIOUS ローバーは、フライトモデルの組み立てが完了し、先月ルクセンブルクより日本へ輸送されました。現在、宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センターにて環境試験の最終段階を迎えている月着陸船 RESILIENCE（レジリエンス）ランダーに搭載されるローバーは、月面着陸後に展開

機構を用いて月面へ着地し、自走して月面探査を開始します。

本発表会では、HAKUTO-R コーポレートパートナーである JAL 協力のもと、ローバーがパリのシャルル・ド・ゴール空港から JAL の航空機で 8 月 4 日に羽田空港に到着するまでの様子を記録映像でご説明するとともに、およそ 9 年間にわたる JAL のご支援・HAKUTO-R プログラムにおけるランダーの推進系燃料配管の溶接作業などの技術協業による関わりについてお伝えしました。

パネルディスカッションに登場した若田光一様は、かつて JAL で航空機の整備技術者として培った経験が「宇宙飛行士となってからも大いに役立った」と振り返り、「有人宇宙活動を進めていくために、ispace の活動は非常に重要。ぜひ応援させていただきたい」とコメント。JAL イノベーション本部で宇宙事業開発を推進する鈴木隆夫様からも「ispace のミッション 2 の成功を JAL グループ社員一同、心より応援しております」とのメッセージをいただきました。

ispace 代表の袴田は、「ispace が中長期的に目指すシスルナ経済圏の構築を推進するため、ミッション 2 の確実な成功に向け取り組んでいく」との意気込みとともに、JAL とのパートナーシップで得た経験について、「我々のみならず、今後の民間の宇宙産業にとっても大きなプラスになるよう、引き続きインパクトのあるシナジーを共に模索していくことが重要と考えております」と話し、これからの宇宙産業全体における今後の展開に期待を寄せました。



当日の様子

■日本航空について

日本航空は、1951 年に設立されました。oneworld アライアンスのメンバーであり、2024 年 3 月時点で 227 機の航空機を所有し、提携パートナーとともに世界 66 カ国・384 空港へのネットワークを提供しています。(*)

Skytrax 社の”5-Star Airline”、北米を拠点とする航空非営利団体 APEX の”World Class”にも認定され、世界で最も定時性の優れたエアラインの一つです。日本航空は「世界一愛されるエアライン」を目指し、お客さまに最高レベルの安全とサービス品質を提供します。

詳細は Web サイトをご覧ください。 <http://www.jal.com/ja>

(*)グループ航空会社を含むネットワークを記載しています。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの3拠点で活動し、現在約300名のスタッフが在籍。2010年に設立し、Google Lunar XPRIZEレースの最終選考に残った5チームのうちの1チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022年12月11日にはSpaceXのFalcon 9を使用し、同社初となるミッション1のランダーの打ち上げを完了。続く2024年冬頃ⁱにミッション2の打ち上げを、2026年ⁱⁱにミッション3、2027年にⁱⁱⁱミッション6の打ち上げを行う予定。

ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内Success8まで成功を収めることができ、Success9中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によってNASAが行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1>)について

HAKUTO-Rは、ispaceが行うミッション1およびミッション2を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の2回のミッションを行う。SpaceXのFalcon 9を使用し、2022年にミッション1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2024年冬頃^{iv}にミッション2（月面探査ミッション）の打ち上げを行う予定。

HAKUTO-Rのコーポレートパートナーには、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、株式会社三井住友銀行、SMBC日興証券株式会社、S k y株式会社、Epiroc ABが参加している。

ⁱ 2024年9月時点の想定

ⁱⁱ 2024年9月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2024年9月時点の想定

^{iv} 2024年9月時点の想定